

<授業の概要>

授業名: いくつかな? 品物の数を数えてお店屋さんゲームをしよう!

内容: イラストやタイルなどの半具体物の数、スプーンやストロー、カードなどの具体物の数を数えよう(1~5)

児童の実態: 小学部1年生

【一般】

- ・発語が不明瞭で「……さい!」「……します!」など、語尾を強く話す。「やだ」「だめ」「ちがう」などの単語は明瞭に話す。
- ・自分から、課題の準備や片づけをするなどの姿が見られることが多い。
- ・活動の中で、取り組む順番、並べ方など、本人が決めたがるが、その場合は、正誤よりも自分がしたいことが優先される。

【算数】

- ・入学時は数字を読むことや数えることができなかったが、現在(10月)は1~5までの数の三者関係が理解できつつある。
- ・1~10までの数字と数詞の関係を理解している。
- ・数字を書くときは、なぞり書きをするが、4~9は、手を添える、指さしをするなどの支援が必要である。

<年間の題材配列について>

小学部1年生ということもあり、まずは「数量の基礎」の学習を設定した。一対一対応や色の弁別などでは、数回学習に取り組むことで理解し、できる姿が見られた。そこで、「数と計算」の学習内容をねらいとして設定し、はじめは『1~3』の数字を扱うようにした。主に、三者関係の理解を扱い、数字→具体物、具体物→数字、数詞→具体物、具体物→数詞の順で学習できるように計画した。また、数詞と数字の関係については、授業の導入で「数字の歌」を歌うことで、『1~10』までを扱うようにした。学習を進めていくうちに、『1~5』の内容であっても、題材のねらいとして設定できる姿が見られたので、扱う数を変更した。今回は、2学期に実施した【数と計算】の授業について改善した内容をまとめていく。

1学期			2学期			3学期	
数字の歌 数詞⇔数字 1~10							
数量の基礎 一対一対応	数量の基礎 仲間集め 色・種類	図形 形集め○△□	数と計算 数字⇔具体物 1~5	数と計算 数詞⇔半具体物 1~5	数と計算 数字⇔様々なもの 1~5	数と計算 数字→半具体物 6~10	数と計算 数詞→半具体物 6~10

<授業改善前の様子>

① これまでの児童の実態

- ・教師が机上に具体物を4個並べた後に「いくつ?」と聞くと、同じ具体物を2回指さして「いち、に、さん、し、ご」と数えたり、「いち、に、に、さん」と数えたりする。
- ・机上に具体物が5個ある状態で、教師が「3個ちょうだい」と言うと、両手で具体物を全て取って教師に渡す。同じ状況で、教師が「1個ちょうだい」と言うと、具体物を1個取り、教師に渡す。
- ・教師が「いくつかな?」と言うと「いやだ」と言ったり、「3個ちょうだい」と言うと「違う、2」と言ったりする。

② これまでの教師の働きかけ

- ・教師が手を添えて左から順に1個ずつ指で押さえて数え、段階的に支援を減らしていく(手を添える→指をさす→一緒に数える)。
- ・正しく数えることができたときは、「〇個だね!数えることができたね!」と伝え、タッチをして認める。

③ これまでの教材・教具等

- ・数字カード(ドット有)、具体物(野菜の消しゴム)

<授業分析>

① 分析の方法

活動の様子を動画で撮影し、教師の働きかけや児童の反応を観察する。観察の視点としては、教師の働きかけ(どのような支援を何回していたか、適切な順序で支援が行われていたか)、問題の正答

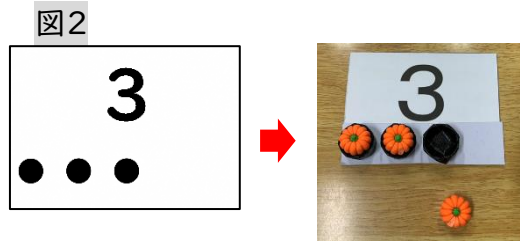
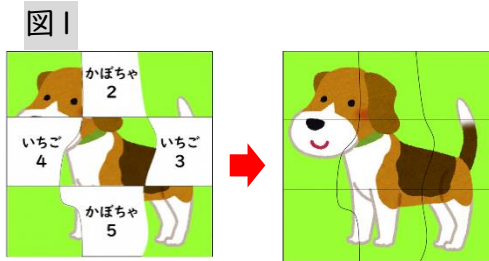
数、課題に取り組む児童の様子（自分から進んで取り組んでいたかななどの意欲面）。

② 解釈・考察

- ・段階的に支援を減らしていくことで、自分で具体物を並べて正しく数える姿が見られるようになった。ことばかけの支援ではできない場合は、指さしの支援をするなど、「できた!」を繰り返すよう配慮しながら、徐々に支援を減らしていくことが効果的だった。
- ・題材が進んでいくと、「いやだ」「違う」など言い、活動が途中で止まることが多くなっていた。

<改善内容>

- 発達段階的にも意欲面につながるような活動を設定する（強化子となるようなもの）。**図1**
 → 問いに正解したらイラストカードを受け取り、全部正解すると好きなイラストが完成する仕組みを設定。
 → 問題は「かぼちゃ3」のように、用紙に記入して提示することで、問いに答えることに意識が向くようにする。
- 数字や数詞と具体物の関係に関心を持って気付くように、自分で正誤を確かめられるような教具を準備する。**図2**
 → 具体物がぴったり収まる容器を取り付けたカードを提示し、自分で具体物を容器に合わせて答え合わせができるようにする。



<授業改善後の児童の変容>

改善前	時数	問1		問2		問3		問4	
	2時間目	かぼちゃ1個ちょうだい 支援なし	○	かぼちゃ4個ちょうだい 教師の指さし 3個渡す 手を添えて一緒に数える	△ ○	いちご3個ちょうだい 手を添えて一緒に数える	○	いちご3個ちょうだい 手を添えて一緒に数える	○
5時間目	かぼちゃ5個ちょうだい 教師の指さし	○	かぼちゃ2個ちょうだい 支援なし	○	いちご4個ちょうだい 教師の指さし	○	いちご5個ちょうだい 教師の指さし	○	
8時間目	かぼちゃ4個ちょうだい 教師のことばかけ「いち、に、に、さん、し」と数えてすべて渡す	△	かぼちゃ3個ちょうだい 教師のことばかけ 机上のかぼちゃを全て渡す	×	いちご5個ちょうだい 「いやだ」「1個」と言う いちご1個、2個 支援なし	○	いちご5個ちょうだい 「しない」と言う 問題を変える 「何個くれる?」→「2個」	- ○	
	教師の指さしを見て数える	○	教師の指さしを見て数える	○	いちご3個、4個、5個→教師の指さしを見て数える	○	いちご2個→支援なし	○	

改善後	時数	問1		問2		問3		問4	
	9時間目	かぼちゃ4個ちょうだい 教師のことばかけ「いち、に、に、さん、し」と数える	△	かぼちゃ5個ちょうだい 教師のことばかけ	○	いちご3個ちょうだい 教師のことばかけ	○	いちご4個ちょうだい 教師のことばかけ	○
教師のゆびさし		○							
12時間目	かぼちゃ5個ちょうだい 支援なし	○	かぼちゃ3個ちょうだい 支援なし	○	いちご4個ちょうだい 支援なし	○	いちご5個ちょうだい 支援なし	○	

※集中力の実態より、短時間で取り組める課題量を設定しているため、国語と算数を同時間内で指導している。時間数は20時間（国語10時間、算数10時間）

○ 児童の様子の変容

題材が進むにつれて、活動の途中で「いやだ」「違う」「しない」という姿が見られるようになっていたが、好きなキャラクターのイラストが完成する仕組みに興味を持ち、自分から進んで課題に取り組む姿が見られるようになった。課題に取り組むことで、段階的に支援を減らすこともでき、自分で具体物を並べて数え出す姿も見られるようになった。また、これまでは教師が数えて正誤の判断をしていたが、自分で確かめることができる教具を提示すると、自分からその教具を取り出して答えを確認する姿も見られた。結果的に、この題材で1~5までの具体物を数えて教師に渡すことができるようになった。

<成果と課題>

- ・改めて日々授業改善をしていくことが大切だと感じた。本校では、毎日15分間の授業を振り返る時間が設定されており、授業改善に向けて取り組みやすい環境だったので、児童の実態を基に改善していくことができた。
- ・児童が課題に取り組むとき、その課題に「取り組みたい!」と思う気持ちを引き出すことを改めて実感した。特に、学習段階が、学習指導要領に記されている、小学部1・2段階の指導内容を扱う児童の場合には、児童の興味関心が高まるような教材を考えておくことが必要だと感じた。
- ・小学部の3段階の指導内容を扱う児童においては、学習や生活に結びつくような内容を扱うことで、学習していることの価値を実感できるようにしていく必要があると感じた。